

海外事務所だより

ソウル事務所

# 韓国における 日本の地域物産展について

ソウル事務所 所長補佐 川村 祥生(富山県派遣)

ソウル事務所では、2009年度から地域物産展の開催事業に取り組んでおり、日本各地の魅力あふれる特産品を韓国に紹介し、市場を開拓するとともに、各地域の観光素材を併せて紹介し、地域の総合的な魅力をアピールしています。

昨年度は、韓国の有名百貨店である新世界百貨店において、10月に「富山県・岐阜県物産展」を、2月～3月に「北海道・岩手県物産展」を地元自治体および輸入業者と連携して開催しました。各物産展の開催結果は以下のとおりです。

## 1. 富山県・岐阜県物産展の概要

### 開催日程

2010年10月8日(金)～ 10月14日(木)	新世界百貨店 江南店 (ソウル市)
2010年10月15日(金)～ 10月21日(木)	新世界百貨店 京畿店 (龍仁市)
2010年10月22日(金)～ 10月28日(木)	新世界百貨店 本店 (ソウル市)

### 出展された主な商品

富山県	岐阜県
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホタルイカせんべい</li> <li>・しろえびせんべい</li> <li>・しろえびのかき揚げ</li> <li>・昆布ゼリー</li> <li>・ホタルイカ旨煮</li> <li>・深層水の塩</li> <li>・土人形</li> <li>・地酒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みたらし団子</li> <li>・めし泥棒漬</li> <li>・きゅうり漬</li> <li>・守口だいこん漬</li> <li>・和紙</li> <li>・地酒</li> </ul>

実演販売された「みたらし団子」は大変評判がよく、3週間で総計7,000本の売上がありました。



物産展での地酒コーナー



好評を博したみたらし団子(継続販売の様子)

その後、百貨店での継続販売に向けた商談が行われ、本年4月から新世界百貨店江南店で継続販売されています。

また、同じく実演販売(試飲・商品説明)を行った「地酒」も韓国での継続取引が行われています。

## 2. 北海道・岩手県物産展の概要

### 開催日程

2011年2月25日（金）～ 3月3日（木）	新世界百貨店 江南店 （ソウル市）
2011年3月4日（金）～ 3月10日（木）	新世界百貨店 本店 （ソウル市）
2011年3月18日（金）～ 3月24日（木）	新世界百貨店 京畿店 （龍仁市）

### 出展された主な商品

北海道	岩手県
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロッケ（かに、ほたて、えび）</li> <li>・ロールケーキ</li> <li>・ポテトフォンデュ</li> <li>・しゅうまい（かに、えび）</li> <li>・らーめん（しょうゆ、みそ、とんこつ）</li> <li>・チョコレート</li> <li>・地酒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白いタイ焼き</li> <li>・お団子</li> <li>・南部せんべい</li> <li>・そば</li> <li>・地酒</li> </ul>



北海道・岩手県物産展の様子



陳列された特産品

「コロッケ」は非常に人気があり、江南店では1週間で5,000個以上の売上がありました。また、「しゅうまい」も週末平均1,000個以上、「白いタイ

焼き」は週末平均400個以上の売上がありました。これらの商品は新世界百貨店で継続販売が検討されています。

## 3. 物産展開催までの流れ

いずれの物産展においても、地元自治体との協議を始め、一連の商品選定等の過程を経て実際に物産展が開催されるまでに概ね半年の期間がかかります。

開催の6カ月前	①地元自治体が出展希望業者を募集し商品をリストアップ ②韓国輸入業者・ソウル事務所がリストから韓国で売れそうな商品を選定（商品の一次選定）
開催の5カ月前	③日本の出展希望業者が一次選定商品のサンプルを韓国輸入業者に送付
開催の4カ月前	④サンプルを受けて、さらに商品を絞り込み（商品の二次選定）
開催の3カ月前	⑤二次選定で絞り込まれた商品を対象に、地元自治体において現地商談会を実施
開催の2～1カ月前	⑥商品発注・輸入手続
開催当月	⑦物産展開催

## 4. 韓国における物産展開催に係る課題と対応

これまで明らかになった韓国における物産展開催に係る課題を紹介すると以下のとおりです。

### ①仕事を進めるペースの違い（商習慣の違い）

日本の場合、何カ月も前から綿密に計画・準備を行います。韓国ではギリギリにならないと話が進みません。直前になるまで日程が決まらず、または日程が決まっても直前に変更されることがありました。

### ②通関・輸送上の制約

以下のような制約があり、これらの条件を満たす地域特産物は多くありません。

- a. 輸入商品は「常温」または「冷凍」に限られ、「冷蔵」商品は取り扱いできません（注1）。また「冷凍」商品でも品質を保つため窒素注入や急速冷凍を求められる場合があります。

b. 百貨店での物産展で販売可能な商品は、賞味期限6カ月以上の商品に限られます(注2)。

c. 通関上の表示規制や輸入会社が求める条件にも合わせる必要があります。

(注1) 理由としては、韓国の百貨店および輸入業者が、「冷蔵」商品は賞味期限が短く売れ残りリスクが高いとともに流通過程での保管が難しいと認識しているため、「冷蔵」商品の取り扱いを避けることがあげられます。

(注2) 一般的に日本食品は売れ残りリスクが高いので、百貨店や輸入業者は賞味期限の長い商品を取り扱っています。

### ③自治体と百貨店との物産展の位置付けの違い

韓国の百貨店は日本の百貨店と異なり、新しいものを紹介して反応を見る意識が薄いようです。また、期間中の売上のみを重視する傾向が強く、そのため大きな売上の見込めない日本の地域特産物よりも、日本の定番商品(おでん、すしなど。地域色は薄い)を優先して陳列する傾向があります。

### ④価格の高さ

円高・輸送費・通関手数料・食品検査費等の影響により、日本商品の販売価格が高くなります。また、日本の自治体によっては、製造業者と輸入業者の直接商談ではなく地域物産を扱う第3セクターを通じた取引とする場合もあり、商品の卸値が高止まる傾向があります。

以上のように、韓国、日本双方の商習慣や、求める商品、物産展に対するイメージの違いなどから、調整は往々にして困難を伴うものになります。

仕事を進めるペースの違いから、相手方に催促や確認をタイミングよく行う必要があります。また、細部(細かい装飾や事前の段取り)については日本側の思いどおりとならない可能性が高いものとあらかじめ想定し、それに対する準備をしておくことも大切です。

商品選定にあたっては、韓国のバイヤーから「日本で売上が低いものは韓国でも売れない。」「日本で売れても韓国ですべてが受け入れられるとは限らない。」「価格の安い商品が欲しいのに高い商品を薦められる。」「日本商品は価格競争力が無く、良いと思った商品が輸入出来ない。」などの指摘があります。日本側と韓国側が希望する商品

にミスマッチが発生するため、選定に至るまでに多くの調整が必要となります。

しかしながら、韓国の百貨店やスーパーで販売されている日本食品は、必ずしも日本の有名ブランド商品ばかりではなく、日本の大手食品メーカーが製造した商品が占めているわけではありません。このことは、日本ではたとえ無名ブランドの商品であっても、その商品の良さが認知されると韓国で売れる商品になる可能性があることを意味します。

今後、物産事業をより効果的な取組みとしていくためには、商品数も少なく比較的高価な「県特産品のPR」という従来の視点に加えて、特産品という認識がない県内産商品についても、「県内事業者の海外進出(拡大)支援につなげる」という新しい視点で、県内の幅広い業者に出展を積極的に促すとともに、現地のニーズに合った品目や価格帯の商品をリストアップするなど、現地の要望を踏まえた柔軟な対応が求められると考えています。

## 今後の取組みについて

これまで物産展開催事業に取り組んできた成果として、昨年度開催した「富山県・岐阜県物産展」に出展された商品から、「みたらし団子」と「地酒」が韓国で継続取引されています。今後とも自治体の皆様と連携協力しながら、日本の素晴らしい商品を韓国の消費者の方々に紹介するとともに、これまでに開催した物産展から一つでも多くの商品が継続取引されるよう、クレアソウル事務所でもフォローアップしてまいります。

また、本年度の秋頃には、「鳥取県物産展」を韓国新世界百貨店で開催する予定であり、現在は鳥取県のご担当者および韓国輸入業者と、物産展で取り扱う商品について検討を行っている段階です。東日本大震災の影響もありますが、引き続き韓国で日本の食品を紹介して、元気な日本をPRしていきたいと考えています。



## 1. はじめに

私が韓国に赴任して一年が過ぎました。その間に現地の方と交流して異文化を体験する機会が多くなりましたが、その都度、お互いに似ている点や異なっている点に気が付きます。この一年に体験したことをご紹介したいと思います。

## 2. 言葉 (韓国語)

日本語と韓国語には共通点があり、単語の起源が漢字である言葉が多く存在します。また、流行的に使われる言葉が存在する点もよく似ています。

ただ、語学学校で教えてもらうことができる表現は、韓国人が普段あまり使わない表現が多いようで、現地の友人と食事をした際に、語学学校で教わっている教科書を見せると、こんな表現は少し変な感じがすると笑われてしまうこともあります。では、「一体どんな表現がいいのか」と尋ねると、大抵教えてくれるのは辞書に出ていないスラングのような単語です。

ここで、一般的にはよく使われているが、学校では教えてもらえない表現をいくつか紹介します。

### ①대박 (テバツ)

「すごい、最高、めっちゃ、最低、最悪」という意味です。語源は文字から「大きな船」という説などいろいろあります。極端にいいことがあった時でも悪いことがあった時でも使うことができるので便利です。

### ②베이글녀 (ベイグルニョ)

「童顔だけどグラマーな女性」という意味で

す。語源はお菓子のベイグルと関わりがあるらしいです。発想が日本と似ていると思います。

### ③뽀수 (ペクス)

「仕事に就いていない人、ニート」という意味です。語源は文字には「白い手」という意味があり、働いていない人は手が汚れないからということです。

こういった表現を教えてもらう時、友人はいたずらっ子のような雰囲気、「普段使うと変わった外国人だと目を付けられてしまうかもしれないよ」というような調子で教えてもらうので、これらの表現が本当に使えるのか疑問に思うこともありますが、語学学校の授業などで使うと、先生の受けがいいことが多く、現地に溶け込めた気分で嬉しく思います。(時々、一体誰に教えてもらったのと呆れ顔をされることもあります。) 今後も現地の友人との交流を深めることにより、たくさんのお言葉を学び、もっと現地に溶け込めるようになりたいと思います。



ハングルを発明した世宗大王の像

## 3. 風習 (韓国の結婚式)

赴任して半年が過ぎた頃、韓国の旅行エージェントを対象とした観光地紹介・旅行商品の商談会

があり、その際に四国の観光紹介ブースに通訳として付いていただいた女性がいました。私は愛媛県の海外活動支援として商談会に行きましたので、3000年の歴史を持つ道後温泉、国の重要文化財に指定されている松山城、サイクリングで瀬戸内海を渡ることができるしまなみ海道など、多くの観光地を紹介したのですが、その方は日本の文化にも詳しく日本語がとても堪能で的確に通訳していただきました。私もたどたどしい韓国語で少しは説明しましたが、観光地を詳細に説明することはとても困難でした。そこで仕事の合間にどのようにして日本語を習得したのか話を伺ったところ、日本（愛媛）への留学経験があり、その時に猛勉強したのはもちろん、日本人とも深く付き合っただけで習得した、そして縁があって月末に日本人と結婚することになったことでした。

商談会の通訳の仕事は、結婚の準備のため韓国に一時帰国している間にアルバイトとして来ていただいたこともあり、わずか一日仕事をご一緒ただけでしたが、結婚式は韓国ですので時間がよろしければ来てくださいと、ご招待いただきました。

日本人の感覚としては、知り合って僅かな時間で自分の結婚式に招待するということではできないだろうと思っていましたので、その時は社交辞令だろうと考えていました。ところが、後日メールで連絡があり、何人かで食事をする事になり、改めて結婚式にぜひ来てもらいたいと招待を受けました。そこで初めて、日本人の感覚としては知り合って間もない方の結婚式に出席することはできないと思うと打ち明けたのですが、韓国ではそんなことは気にしないと言われました。例えば、友達の友達が結婚式に来ることは一般的で、全く面識のない人が来ることはよくあることで、一昔前は結婚式の会場に受付を置いてなかったのも、たまたま通りかかった人が食事を目当てに入ってくることもあったらしいです。どんな方であっても自分の結婚を祝福してもらえたら嬉しいから歓迎するという事です。その話を聞き、習慣の違いに私はとても驚きましたが、喜んでもらえるならと思い、結婚式に出席することにしました。

結婚式は、全体を通して30分程度で、最後に行った写真撮影に一番時間をかけるという、写真好きな韓国(?)らしさを感じることができ



結婚式での写真撮影の様子

るような式でした。時間だけを見ると日本よりはるかに短いのですが、韓国と日本のお互いの親族への挨拶や友人たちからの祝福の挨拶はありましたし、とても温もりのある内容でした。また、挨拶はお互いが相手側の母国語を織り交ぜてしていました。韓服を来た親族の方たちや、韓国の伝統的な結婚式での儀礼の様子など、日韓交流が行われる様子を見ることができ、とても貴重な体験となりました。

#### 4. おわりに

「言葉を知れば世界が広がる」とよく言われますが、今まさに身をもって体験しています。母国語を勉強している外国人に対しては親しみを持って、持ってもらえることができ、自然とお互いを理解しようとするものだと思います。そして、お互いに学ぶことで、知識の幅はもちろん、人間としての幅も広げることができるので、世界が広がることになると思います。

また、風習の違いを肌で感じることは素晴らしい経験になると思います。直接見て、感じて、ということは最も記憶に残るので自分のためになるものでもあり、この経験を積み重ねることで、さらに韓国文化を理解して、私個人では僅かであったとしても、日韓交流を深めることにつながればと思います。

私の海外での任期は残り一年を切りましたが、この先どれだけ異文化を体験することができるか楽しみです。この生活を通じて、韓国と日本はお互い理解し合うことができることを感じています。帰国するまでに多くの人脈を築いて、生涯の財産にしたいと思っています。